

鉄道芸術祭 vol.9

都市の身体

～外から眺める私たちの輪郭、
遠くから聞こえてくる私の声～

[会期]

2019年10月26日(土)～12月29日(日)

コンセプト、アーティスト発表
および
オープニング・プログラムについて



上から：小沢裕子《SPEAKERS 言葉の乗り物になった私たちが、そのとき身体で目撃すること》2018年、Jompet KUSWIDANANTO《The Contingent #5》2012年、武田晋一《obstacle》2018年 より

■ もくじ p.1…企画背景 p.2…企画主旨／企画概要 p.3…みどころ p.4-5…プロフィール p.6…取材申込

■ アートエリア B1 とは…

京阪電車中之島線建設中の2006年から、企業・大学・NPO法人が協同で、都市空間における駅の新たな可能性を模索する「中之島コミュニケーションカフェ」を実施。これを継承して2008年10月の中之島線開業を機に、なにわ橋駅の地下1階コンコースに「アートエリア B1」を開設しました。ここでは様々なプログラムを実施し、「文化・芸術・知の創造と交流の場」となることを目指しています。

主 催：アートエリア B1

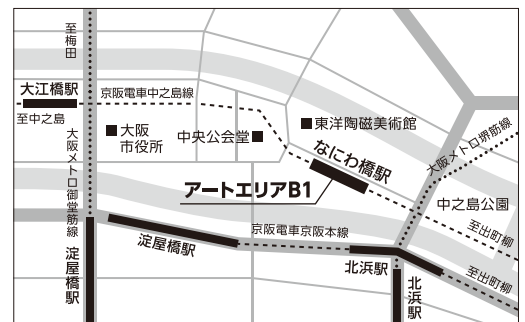
【大阪大学 + NPO 法人ダンスボックス + 京阪ホールディングス (株)】

企画制作：大阪大学共創機構社会学共創本部 21世紀懐徳堂／

NPO 法人ダンスボックス

協 力：京阪電気鉄道株式会社

[会場アクセス]



京阪電車中之島線「なにわ橋駅」地下1階コンコース
(大阪メトロ御堂筋線「淀屋橋駅」堺筋線「北浜駅」から徒歩約5分)

■ 本資料に関する アートエリア B1 事務局

お問い合わせ E-mail: press@artarea-b1.jp

TEL: 06-6226-4006 FAX: 06-6226-7299 (12:00～19:00)

※月曜(祝日の場合は翌日)休館

〒530-0005 大阪市北区中之島 1-1-1 京阪電車なにわ橋駅地下1階

企画背景 「鉄道芸術祭」とは…

“鉄道”には、車両や沿線図、列車が走る線路や駅舎・ホームなど、先進的な技術や魅力とともに、そこにまつわる文化や歴史があります。駅のコナコースにあるアートエリア B1 では、その創造性に着目した事業「鉄道芸術祭」を2010年より毎年開催しています。

本芸術祭では、鉄道という歴史や文脈を踏まえ、駅コナコースに位置する当館の場所性を活かした独創的な企画を実施します。芸術の新たな可能性を示唆すると共に、様々な人々に先駆的な表現世界に触れる機会を提案し、新たな観客創造にも寄与することを狙いとしています。

■過去の鉄道芸術祭



鉄道芸術祭 vol.0 (2010)

鳥瞰図絵師・吉田初三郎の沿線御案内図等による展示。(2011年からの本格始動後は、ゲストアーティストを迎えアートプロジェクトを展開)

撮影：佐伯慎亮



鉄道芸術祭 vol.1 (2011)

「西野トラベラーズ」

プロデュース：西野達（現代美術家）
ゲストアーティスト：横山裕一、しりあがり寿、山川冬樹、伊藤キム、contact Gonzo、ジェコ・シオンポ

撮影：表恒匡 (SANDWICH GRAPHIC)



鉄道芸術祭 vol.2 (2012)

「駅の劇場」

プロデュース：やなぎみわ
ゲストアーティスト：あごうさとし、石黒浩、吹田哲二郎、フォルマント兄弟、松本雄吉

撮影：井上嘉和



鉄道芸術祭 vol.3 (2013)

「上方遊歩 46 景」

プロデュース：松岡正剛
参加アーティスト：有栖川有栖、いしいしんじ、柴崎友香、束芋、ほしよこ、町田康、山本精一、春野恵子、他

撮影：井上嘉和



鉄道芸術祭 vol.4 (2014)

「音のステーション」

参加アーティスト：相川勝、有馬純寿、伊東篤宏、宇治野宗輝、江崎將史、江南泰佐、鈴木昭男、野村誠、藤本由紀夫、三田村管打団？、八木良太、和田晋侍、他

撮影：井上嘉和



鉄道芸術祭 vol.5 (2015)

「もうひとつの電車」

プロデュース：ホンマタカシ（写真家）
参加アーティスト：黒田益朗、小山友也、NAZE、PUGMENT、蓮沼執太、マティアス・ヴェルムカ&ミーシャ・ラインカウフ

撮影：井上嘉和



鉄道芸術祭 vol.6 (2016)

「ストラクチャーの冒険」

参加アーティスト：榎忠、五十嵐大介、インビジブル・デザインズ・ラボ

撮影：福永一夫



鉄道芸術祭 vol.7 (2017)

「STATION TO STATION」

プロデュース：立花文穂
参加アーティスト：荒木信雄、石田千、高山なおみ、長崎訓子、齋藤圭吾、ワタナベケンイチ、伊勢克也、島武実、仲條正義、他

撮影：松見拓也



鉄道芸術祭 vol.8 (2018)

「超・都市計画」

参加アーティスト：THE COPY TRAVELERS (加納俊輔、迫鉄平、上田良)、Oscar Peters、飯田和敏

撮影：守屋友樹

企画主旨 “都市の身体” をテーマとする企画展

アートエリア B1 では、鉄道芸術祭 vol.9 「都市の身体～外から眺める私たちの輪郭、遠くから聞こえてくる私の声～」を開催いたします。今回は、昨年度に続き「都市計画」という大テーマのもと、都市と身体の関係性に焦点をあてます。

増加する都市人口と都市生活者の多様化

近代都市計画の要であった鉄道の普及により、私たちの日常生活や移動環境は大きく向上しました。他方で、時刻表による厳格な時間の概念や電車内でのマナーといった社会規範によって、人々の振る舞いを規定、規制することにもなりました。鉄道は、都市の骨格形成とともに、私たちの身体性にも深く関係してきたのです。

今日、世界人口の半数以上が都市部で暮らし、2050年までに都市人口は65億人を超え、全人口の3分の2に達する見込みといわれています。世界的な都市化が進む中で、そのあり方もますます流動的で多様になっていくでしょう。日本においては、存在感を増す海外からの一時滞在者や外国人観光客、移民の人々といった〈内なる国際〉のあり方も含め、都市の様相は刻々と変化し、新たな価値観や基準などが求められています。

インドネシアと日本の3組のアーティストによる作品群

本展では、国内外の3組のアーティストが、こうした都市における都市生活者のさまざまな振る舞いと、それを生み出す身体を独自の視点で捉え直し、作品を展開します。

インドネシア出身のジョンペット・クスウィダナントは、自国の複雑な成り立ちと歴史文化や現代社会への洞察に基づいて、群衆と個、姿なき声やメッセージなどに関するインスタレーションを発表します。小沢裕子は、大阪で在留外国人が多いエリアや、文楽・浪曲といった言葉にまつわるリサーチをもとに、日本人または外国人都市生活者の言葉によるコミュニケーションのあり方などについて考察した新作映像作品を発表します。武田晋一は、フランス留学を経て移り住んだ奈良・東吉野村と本会場がある大阪・中之島との行き来きを通じて、都市と地方を結ぶ道ゆきや2つの場所の環境の違い、移動や運搬といった要素をふまえて作品を構成します。

“都市の身体” にまつわる世界の内と外からの考察

三者三様の手法で、“都市の身体” にまつわる世界の内と外からの考察に基づいた表現を通じて、わたしたちの身体感覚を取り巻く社会の規制や制度といった問題や、複雑かつ豊かで未だ見ぬ可能性を秘める人間の身体感覚の未来を思考します。

個々の作品と相互関係を読み解きながら、多様な人々や文化が共存する姿なき都市の輪郭をイメージし、他者や自らの声に耳をすませることで、この国や異国の地、都市や郊外を行き交う人間の身体感覚について考察する機会となれば幸いです。

開催概要**タイトル** 鉄道芸術祭 vol.9**「都市の身体 ～外から眺める私たちの輪郭、遠くから聞こえてくる私の声～」****開催期間** 2019年10月26日(土)～12月29日(日) 12:00～19:00 ※月曜休館(祝日の場合は翌日)**会場** アートエリア B1 (大阪市北区中之島 1-1-1 京阪電車なにわ橋駅地下1階)**入場料** 無料(一部有料イベントあり)**参加アーティスト** 小沢裕子(日本/映像)

Jompet Kuswidananto(インドネシア/インスタレーション)

武田晋一(日本/彫刻、インスタレーション)

主催:アートエリア B1【大阪大学+NPO法人ダンスボックス+京阪ホールディングス(株)】

企画制作:大阪大学共創機構社会学共創本部 21世紀懐徳堂/NPO法人ダンスボックス

助成:芸術文化振興基金、公益財団法人朝日新聞文化財団(2019.7.30時点) 協力:NANZUKA、京阪電気鉄道株式会社

オープニング・プログラム**日時:2019年10月26日(土) 15:00～17:00(予定)****入場無料・申込不要****会場:アートエリア B1**

ゲスト:小沢裕子、Jompet Kuswidananto、武田晋一

司会進行:木ノ下智恵子、久保田テツ、文(アートエリア B1 運営委員)

みどころ

本企画のみどころ

その1 七変化する駅地下コンコース、「都市の身体」をテーマにした企画展を開催

2008年、地下の駅コンコースに誕生したコミュニティスペース「アートエリア B1」は、美術館ともギャラリーとも異なる場所性・空間性を活かして、実験性の高いさまざまなプロジェクトを展開してきました。開館10周年を迎えた昨年度より、鉄道および当館の成り立ちとも深く関わる「都市計画」に着目した企画を継続展開しています。

今回は、「都市と身体」をテーマに3組のアーティストを迎えて、都市生活者のさまざまな振る舞いとそれを生み出す身体に着目し、空間を最大限に生かした現代美術作品の展示を行います。

その2 インドネシアで最も国際的に活躍するアーティストの一人、ジョンペット・クスウィダナントの作品を関西で初紹介！

シャルジャ・ビエンナーレ（アラブ首長国連邦、2019）、台北ビエンナーレ（台湾、2012）、リヨン・ビエンナーレ（フランス、2009）、横浜トリエンナーレ（日本、2008）など数多くの国際展にも参加し、国際的に高く評価されているインドネシア人アーティスト、ジョンペット・クスウィダナントの作品を、関西で初めて紹介する好機となります。クスウィダナントは本展に向けて来日し、本展初日にはオープニング・イベントにも参加します。

その3 貸切電車を舞台にした電車公演など、鉄道芸術祭でしか体験できない多彩な関連イベント

鉄道芸術祭の恒例企画「電車公演」では、京阪電車の貸切車両を舞台に一日限りの特別なパフォーマンスを実施。独自の「乗車体験」によって電車・鉄道の意味を拡張します。また、参加アーティストをはじめ、鉄道や都市と身体などに関する多分野から、専門家を招いてのトークシリーズやパフォーマンスも開催予定。多彩な関連イベントで多角的にテーマを読み解きます。

小沢裕子



《SPEAKERS 言葉の乗り物になった私たちが、そのとき身体で目撃すること》 2018年 ワークショップ
撮影：佐藤基 画像提供：トーキョーアーツアンドスペース

ジョンペット・クスウィダナント



《The Contingent #5》 2012年
©Jompet Kuswidananto Courtesy of Nanzuka

《Java, War of Ghosts (2009) and Java's Machine: Crevasses (2014)》
2014年 Photo courtesy of Jompet Kuswidananto

武田晋一



《obstacle》 2018年 exhibition view (first floor)

《obstacle》 2018年 from my house to Pantaloone (18/2 2018)

参加アーティストプロフィール

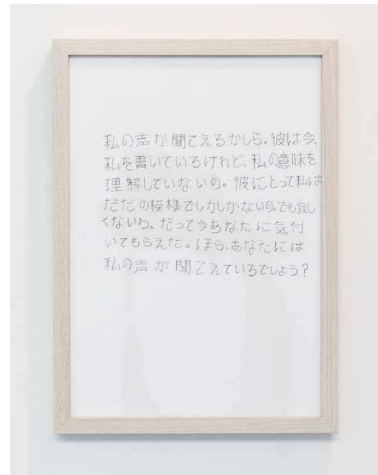
小沢裕子 | Yuko Ozawa

1984年千葉県生まれ。東京都在住。
2009年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。映像と字幕、文字と意味や言葉と声などの間に、意識的または無意識的にズレを生じさせる仕組みを用いて、映像作品やインスタレーションを制作している。いずれの作品も、自分という認識に違和感を生じさせ、鑑賞者の意識の焦点を揺り動かす装置として機能し、自明とされている意識のありようを問いかける。

主な個展に「小沢裕子 SPEAKERS：その言葉は家主のような顔をしている」（彗星倶楽部、金沢、2019）、「Pull Out」（BLOCK HOUSE、東京、2018）、「エマーゼンシーズ！023 小沢裕子／無名の役者たち」（ICC、東京、2014）他。主なグループ展に「トランス／リアルー非実体的美術の可能性」（gallery α M、2016）、「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.4：リアルをめぐって」（高松市美術館、2014）など。 <https://yukoozawa.themedia.jp/>



《BLUE WAVES》2016年
映像 3:57



《Martin (3)》2015年
紙に鉛筆、額 (299mm×212mm)
撮影：松尾宇人

ジョンペット・クスウィダナント | Jompjet Kuswidananto

1976年ジョグジャカルタ（インドネシア）生まれ。同地在住。ガジャ・マダ大学社会学・政治科学専攻にてコミュニケーション論を学ぶ。1998年パフォーマンスグループ Teater Garasi にて音楽家、パフォーマーとして活動を開始、その後インスタレーションや映像作品などを手がけるようになる。作品のまなざしは、多様な宗教、人種、思想が複雑に絡みあうインドネシアの歴史と現代社会へと向けられており、とりわけ、植民地主義やポスト・スハルト期の政治、社会状況に焦点を当てたものが多い。現在、最も国際的に活躍するインドネシア人作家のひとり。

主な個展に「On Paradise」（Aa29 Project Room、ミラノ、イタリア、2019 / MAC' s Grand Hornu、ボッス、ベルギー、2017）、「After Voices」（Sherman Contemporary Art Foundation、シドニー、オーストラリア、2016）他多数。国際展への参加多数。日本でも「サンシャワー：東南アジアの現代美術展～1980年代から現在まで」（森美術館／国立新美術館、東京、2017）、個展「On Asphalt」（NANZUKA、東京、2012）、Yokohama Triennale 2008 等がある。



《Staging Collectivism》2013年 Installation
Photo courtesy of Jompjet Kuswidananto



《Words and Possible Movements》2013年 Installation
Photo courtesy of Jompjet Kuswidananto

参加アーティストプロフィール

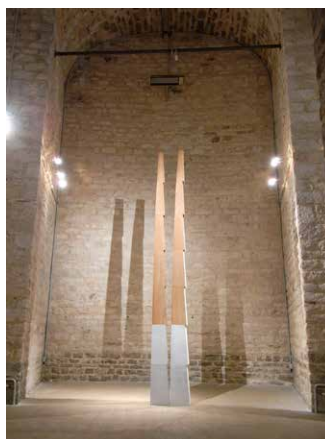
武田 晋一 | Shinichi Takeda

1981年広島県生まれ。奈良県在住。

2003年に渡仏し、2009年ブルジュ国立高等芸術学校卒業。

段ボールや木材、またロープやワイヤー、プラスチックバンドなどの既製品を加工したオブジェクトと自作のドローイングや植物などを、空間に応じて緻密に組み合わせ、構成したインスタレーションを発表。多くの場合、作品を構成する一式はコンパクトに梱包され、武田自身の手で自宅と展示会場間を運ばれる。作品は保管時、移動時、展示時すべての時間にわたって作品として存在するという考えのもと、武田の作品は場所に応じた変化を内包している。

主な個展に、「obstacle」(Pantaloone、大阪、2018)、「dissimulation」(star gallery、名古屋、2012)など。グループ展に「GINGA」(天和の里、奈良、2017)、「Triangulation」+ Nicolas Herubel + Elyakine Tourabi (Centre Jeanne Hachette、イヴリーシュールセーヌ、フランス、2013)、「The Sunday Curators」(SWG3 Gallery、グラスゴー、スコットランド、2013)など。<http://www.stakeda.net>



《La volonté d'architecture》 2011年



《Le spectacle de la nature》 from my house to Château d'eau (17/06 2011), 2011年

取材お申し込み

本展に関する取材をご希望の方は、下記にご希望日時と貴社情報をご記入の上、FAX または E-mail にてお申し込みください。(後日、アートエリア B1 事務局より受付のご連絡をさせていただきます)

- ・ **【10月26日(土) オープニング・プログラム】**当日は、[10:00~13:00] の時間帯でアーティストへの個別取材が可能です。ご希望の方は希望時間とともにお知らせください。可能な範囲で対応させていただきます。

■個別取材希望：時間 ： ～ ： ■オープニング・プログラムに参加します。

- ・ **会期中の取材をご希望の方** ※アートエリア B1 運営委員(本展ディレクター)による対応となります

ご希望の方は、第一、第二希望の日時をご記入ください。 ※ 対応可能時間：12:00~18:00 (月曜(祝日の場合は翌日) 休館)

■第一希望 月 日 () ： ～ ： ■第二希望 月 日 () ： ～ ：

※取材対応は、関係者の予定を調整の上、決定させていただきます。

貸出用画像

展覧会広報用として本紙掲載の作品画像をご用意しております。ご希望の際は、画像の□に ✓ をお付けください。

【小沢裕子】



O-01



O-02



O-03



O-04

【Jompet Kuswidananto】



J-01



J-02



J-03



J-04

【武田晋一】



T-01



T-02



T-03



T-04

※画像の使用に際しましては、以下の点をご注意ください。

- ① 画像の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。
- ② 掲載にあたっては、貸出の際にお送りする<クレジット>全文を必ず表記してください。
- ③ トリミングや、文字のせなど、写真の改変はご遠慮ください。
- ④ 本展記事をご紹介いただく際には、恐れ入りますが情報確認のため校正の段階で原稿をお送りください。また、ご掲載等いただきましたら、当館の記録として保管いたしますので、掲載誌(紙)、DVD、CD等を1部お送りください。

■ 貴社情報をご記入ください。

雑誌名・番組名・ウェブサイト名

種別 (○印をつけてください)

雑誌・新聞・ネット媒体・TV・ラジオ・その他

発売・放送・公開予定

月 日 ()

貴社名

ご担当者名

e-mail

TEL / FAX

備考

【送付・お問合先】アートエリア B1 事務局

FAX : 06-6226-7299 / E-mail : press@artarea-b1.jp

TEL: 06-6226-4006 (12:00~19:00)※月曜(祝日の場合は翌日)休館

〒530-0005 大阪市北区中之島 1-1-1 京阪電車なにわ橋駅地下1階